

▼オクノベル錠 [内] <未販売>

【重要度】 【一般製剤名】 オクスカルバゼピン oxcarbazepine 【分類】 抗てんかん薬

【単位】

【常用量】

【用法】

【透析患者への投与方法】

【保存期 CKD 患者への投与方法】 Cr 30mL/min 未満では舌性代謝物の半減期が2倍に延長するため50%に減量 (Flesch G: Clin Drug Investig 24: 185-203, 2004 PMID: 17516704)

【特徴】 他剤で十分な効果が認められないてんかん患者の部分発作治療の補助薬。カルバマゼピンの副作用軽減を目的として化学構造の一部を変化させている。

【主な副作用・毒性】

【安全性に関する情報】

【吸収】 $ka=8.3\pm 8.9/hr$ (Hooper WD, et al: Clin Exp Neurol 24: 105-12, 1987 PMID: 3268334)

【F】 ほぼ完全に吸収される (Hooper WD, et al: Clin Exp Neurol 24: 105-12, 1987 PMID: 3268334)

【tmax】

【代謝】 活性代謝物 10-モノヒドロキシ体 [MHD] (Flesch G: Clin Drug Investig 24: 185-203, 2004 PMID: 17516704) 主代謝物は 10,11-Dihydro-10-hydroxycarbamazepine とジアステレオマーのO-グルクロナイド (Schutz H, et al: Xenobiotica 16: 769-78, 1986 PMID: 3765657) 未変化体よりも10-水酸化体が活性のメインと思われる (Hooper WD, et al: Clin Exp Neurol 24: 105-12, 1987 PMID: 3268334)

【排泄】 尿中回収率94%以上で、未変化体と未変化体の硫酸化体およびグルクロン酸抱合体として13%回収 (Schutz H, et al: Xenobiotica 16: 769-78, 1986 PMID: 3765657)

【CL/F】 $2.898\pm 1.439L/hr$ (Hooper WD, et al: Clin Exp Neurol 24: 105-12, 1987 PMID: 3268334) $2.5L/hr$ (Dickinson RG, et al: Eur J Clin Pharmacol 37: 69-74, 1989 PMID: 2591466)

【t_{1/2}】 MHD として8~9hr (Flesch G: Clin Drug Investig 24: 185-203, 2004 PMID: 17516704) $1.26\pm 0.37hr$ (Hooper WD, et al: Clin Exp Neurol 24: 105-12, 1987 PMID: 3268334) 未変化体1.0~2.5hr, 10-水酸化体: 8.4hr (Dickinson RG, et al: Eur J Clin Pharmacol 37: 69-74, 1989 PMID: 2591466)

【蛋白結合率】

【Vd/F】 $3.937\pm 2.222L/kg$ (Hooper WD, et al: Clin Exp Neurol 24: 105-12, 1987 PMID: 3268334)

【MW】

【透析性】

【薬物動態】 線形動態で、定常状態の活性代謝物濃度は未変化体の9倍 (Dickinson RG, et al: Eur J Clin Pharmacol 37: 69-74, 1989 PMID: 2591466)

【O/W 係数】

【相互作用】 濃度依存的な代謝酵素誘導作用を有するが、誘導能はCBZやPHTより弱い (Patsalos PN, et al: Eur J Clin Pharmacol 39: 187-8, 1990 PMID: 2253672)

【肝障害患者への投与方法】

【小児 CKD 患者における報告】

【妊婦・授乳婦への投薬】

【主な臨床報告】

【更新日】 20180717

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。